

答 辞

寒さの厳しかった冬も終わり、吹く風に春のぬくもりが感じられるようになりました。本日は、私たち卒業生のために、このような晴れやかで、盛大な式を行っていただき、本当にありがとうございます。

三年前、私たち四十九名は真新しい制服に身を包み、今日と同じようなたくさんの花々に囲まれ、この体育館で入学を許可されました。高校生活への期待、これまでの自分を変えたいという目標を胸に抱きながらも、学校生活や寮生活をうまくやっていけるだろうかという不安でいっぱいでした。入学初日からカビの匂いのする寮で黙ってご飯を食べ、長い話を聞き、二十二時消灯という余裕のないスケジュール。電気の消えた部屋で、このベッドの上の段で寝息をたてている人はいったいどんな人なのだろうと、さらに不安をつのらせながら眠りについたことが、昨日のことのように思い出されます。こうして始まった寮生活は、初めこそ生活のすべてが苦痛でしかたありませんでしたが、ここでの生活があたりまえになった頃には、すっかり楽しく、充実したものになっていました。みんなと一緒に寮に帰る、お風呂に入る、食事をする、勉強をするという生活はもちろんですが、お風呂のお湯

が出なくなつて水風呂になつてしまったこと、夜、見回りの先生におもちゃのクモを仕掛けたこと、朝の四時に火災報知器が鳴り響いて、次の日のテストがとても眠かつたこと、空き部屋で隠れながら恋愛の話で盛り上がったたり、悩みを相談したりしたこと、他室出入りがバレて厳しく指導されたことなどかけがえのない時間や思い出があざやかによみがえってきます。そして、この一年間の寮生活で価値観も変わり、周りの人への感謝の気持ちも生まれ、卒寮する時には、入学当初に抱いていた、変わりたいという目標に近づけたように感じました。

二年生になつて後輩ができ、それぞれが実習や学校行事、部活動などで中心学年となつて活動するようになると、みんな一緒に同じ時間を過ごしていた寮生活の反動からか、なんとなく学年がバラバラになつてしまったように感じていました。しかし、さまざまなことを一つ一つ乗り越えていくうちに少しずつまとまっていき、二年生最大の楽しみである修学旅行では、また寮生活に戻つたようで、とても楽しい思い出を作ることができました。そして、楽しくてはしやぎすぎたせいか、修学旅行から帰つた次の一週間、インフルエンザで学年閉鎖になつてしまったことも、今ではよい思い出です。

三年生になってから今日までの日々はあつという間でしたが、修学旅行で深まった学年の「和」で、いつも雰囲気は明るかったような気がします。七月、初めて野球部の応援に学年みんなで行ったこと。九月、今まで優勝なんてしたことがなかったのに、競技の部と応援の部のW優勝を果たした体育祭。十一月、それぞれのクラスが一人一人の個性を發揮させて盛り上がり、三年間でいちばん楽しかった文化祭。学校行事に加え、進路活動や部活動、生徒会や農業クラブの活動、資格・検定試験など、とても忙しく大変な一年間ではありましたが、一人一人がそれぞれに頑張りました。決して全員で何か一つのことをしたわけではありませんが、そこには確実に団結力が生まれていたと思います。三年生になって、みんなというのが楽しくて嬉しくてしかたない、そんな感情を抱いていたのはきっと私だけではないと思います。

さて、一、二年生のみなさん。みなさんは、来年度、日本学校農業クラブの全国大会を運営しなければいけないというところで、今より学校生活は大変になると思います。今年度も畜産部の全国和牛能力共進会出場や「金の桜黒豚」のブランド化、市来農芸産の作物を使った新商品の開発など、様々な面で注目されましたが、来年度は今年度以上に市来農芸高

校が注目されることでしよう。どうか、市来農芸高校生であることに自信を持ってください。そして市来農芸高校生だからこそ学べることで、できる活動、行ける場所があると思います。命の尊さや食の大切さは、実際に苦勞して作物や動物を育てたからこそ実感できたことです。私はここで、生徒会長を務め、やりたい部活動にもほぼ満足に取り組むことができました。専門高校フェスタや各種大会など様々な活動を通して、これまでに味わったことのない気持ちや舞台を経験することができました。どれも市来農芸高校生でなかったらできなかったことだと思います。存分に市来農芸高校の力を借りて、充実した高校生活になるように努力してください。私たち三年生は、卒業してからも、みなさんのことを、そして母校のことを応援します。

そして、先生方。先生方には、本当にお世話になりました。三年間の高校生活を通して、私たちは成長することができたでしょうか。先生方は、授業以外にも進路のことや社会人としての心構えなど、人生の先輩としてたくさんのお話を教えてくださいました。明日から会えなくなると思うととてもさみしいです。先生方に会いたくなかった時は会いに行きますので、今までのように笑顔で温かく迎えてください。

保護者のみなさま、三年間、本当にありがとうございました。いつも温かく見守り、支え、励ましてくれた存在があったからこそ、無事に今日という日を迎えることができました。いくら感謝してもきれない気持ちでいっぱいです。まだまだ迷惑も心配もかけるとは思いますが、これからもどうぞよろしくお願いします。

来賓のみなさま、本日はお忙しい中、私たちの卒業式にご出席いただき、ありがとうございます。私たちは市来農芸高校で身につけた拓心の精神を忘れず、これから、それぞれのステージで頑張っていけます。在校生も私たち以上に頑張ってくれると思いますので、これからも母校の応援をよろしくお願いします。

私たちは今、三年前と同じような期待、目標、不安を抱えながら夢実現への道を歩み始めます。その道がどんな道になるのかまだ分かりません。しかし、どんな道でも私たちは歩み続け、道がなければ新たな道を切り拓こうと努力していきたいと思います。でもたまにはくじけそうになったり、長い休憩をとったりしているかもしれませぬ。その時は、どうかみなさん、そつと背中を押してください。それだけで私たちは、また歩き始めることができますと思います。

さあ、いよいよ別れの時が近づいてきました。この学び舎でかけがえのない三年間を過ごしたこと、市来農芸高校を卒業できること、そしてみなさんと出会えたことは、私たちに
とって何よりの誇りであり宝です。

今日まで本当にありがとうございました。

平成三十年三月一日

卒業生代表 中 香 乃